



自ら行動し、常に挑戦の社風に

北陸勤務は初めて。かじ取り役のプレッシャーを感じつつも、「トップセールスマンとして自ら行動し、『常にチャレンジし続ける』、そんな支店を作り上げたい」

前田道路北陸支店長

すぎやま みつる
杉山 満氏



と抱負を語る。

企業や道路舗装業界の持続可能性を念頭に、▽安全▽順法▽時短の3点を推進事項に掲げる。

特にものづくりに関わる以上、「安全は何よりも優先される」と強調する。

手持ち工事は北陸地方整備局から受注した3件が稼働しており、引き続き国土交通省やNEXCOの案件を注視する。売上比率は民間の方が高いことから、「本社法人顧客や地元の得意先業者との互恵関係を深めていきたい」との考えを示す。

アスファルト合材工場は、原油製品高騰分の販売価格への転嫁と

いう課題に直面しているが、2022年10月には全社的にその価格を引き上げた。今後は、脱炭素に寄与する技術、製品(合材)の開発・販売を通じ、環境保全と製造数量の維持・拡大を両立したい」方針だ。

発注者の理解を得て、現場の週休2日を確保するとともに、「知恵を出し合い、効果的な生産性向上策を展開していく」と力を込める。支店社員にはチームワークの重要性に加え、「学びを大切にし、小さな変化を積み上げて大きな変化につなげてほしい」と望む。

1988年3月宮城県立石巻商業高校卒業後、同年4月前田道路入社。東北支店・製品部門一筋で、東日本大震災では昼夜を問わず合材供給に尽力した。4月1日から現職。宮城県出身、53歳。

